

「世界の交流拠点都市金沢」をめざして



金沢市長
山野 之義 氏

随想

岡崎市と金沢市は、市民間の往来及び交流並びに他地域からの誘客を促進することによる地域の活性化を目的に、観光交流都市協定を締結し、今年で八年目を迎えました。

さて、金沢市は、平成二十五年三月、新たな都市像として「世界の『交流拠点都市金沢』をめざして」を策定しました。これまで本市の先人達は、まちの個性である歴史や伝統、学術、文化を大切に守り、磨き高めてきました。連綿と引き継がれたまちづくりの規範が、このまちに魅力と品格を与え、そのことよって「歴史都市」や「創造都市」として認められた本市は、国内外の多くの方々から評価されうる存在になりつつあります。

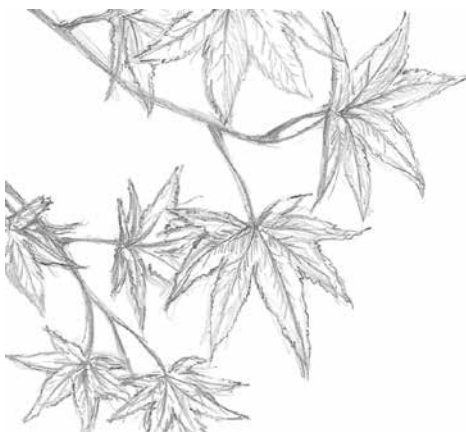
都市像で言う「交流拠点都市」とは、これまでのまちづくりの基本を受け継ぎながらも、北陸新幹線金沢開業を機に更なる高みをめざし、次のス

テップに移行するためのものであり、これまでに培われた金沢のストックを最大限に活用することにより、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けるま

ちのことです。

もちろん、交流拠点都市として金沢が発展していくためには、行政はもとより、市民自らにも「自立」が求められます。即ち、一人ひとりが社会の中での役割や他者との関わりをこれまで以上に意識していくことが重要であり、そうした市民との協働を進めることが、交流拠点都市の基盤となる「誇りあるまち」につながっていくものと考えています。

現在、「世界の交流拠点都市金沢」の実現に向けて、重点戦略計画の五つの方針である「技術力に裏打ちされた新たな産業の創出」、「まちの品格



(やまの ゆきよし)



平成 27 年 11 月 1 日

11 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

随 想	1
金沢市長	山野 之義氏
この人に聞く	2
まるや八丁味噌	製造部石積職人
	染次 一郎氏
羅 針 盤	2
生徒指導 (不登校) 指導員	富田 好己
ふれあい	3
奥殿小	後藤 三奈
特 集	4
学校ミュージアム	市内小中学校にある
	市ゆかりの芸術作品(立体・工芸)
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
東京オリンピック聖火リレー	(昭和 39 年)
この本を	8



石積み心の心と技

まるや八丁味噌製造部石積み職人
染次 一郎 氏

大きくて厚みのある手のひらには、小さな血豆の跡が見える。一桶に六〇〇個から七〇〇個の石を積み上げるといふ、八丁味噌の石積み作業を担う職人の手だ。

「私を育ててくれた職人は、もつと厚くて大きい手のひらをしていました。なにせ、素手で石を積んでいましたからね。」

染次さんがこの仕事についたのは、二十九歳のときだった。それまで勤めていたパン製造工場からの転職を考えているとき、目に留まったのがこの仕事だった。

「始めから石積み職人を目指していたわけではありません。ただ、流れ作業ではなく、昔ながらの力仕事のようなことをやりたいと思っていました。」

見習いとしてついていた先輩職人は、二十歳も年上の昔かたぎの人だった。「とにかく目で見て覚えろという教

え方でしたから、やっていることをよく観察し、真似る努力をしました。私の積み方が悪いと、何も言わずに直されることもありました。悔しかったですね。職人としての心のありようも含めて『こういう風にやりやがれ』という感じでした。」

厳しい方だったが、だからこそ身に付いたのだと語る。

「『石の顔を出せ』とよく言われました。表に出ている部分を『石の顔』と呼ぶのですが、石と石の組み合わせなので、きまりや見本はもちろんありません。組み合わせたときに、外側に隙間がなるべく出ないように石の面を向けるということです。桶の内側に均等に力がかかるように、石がしっくりくる位置という感じでしょうか。その感覚をつかむまでに、何年もかかりました。」

八丁味噌は、仕込むときの水分の割合が他の味噌に比べてかなり低いので、普通にしておくと桶の上の方が乾いてしまう。均等に熟成を進めるには、味噌六トンに対して三トンの重しをかけ、二夏二冬しっくり寝かせる。この石積み技術があるからこそ、八丁味噌を作ることができるのだ。

「大きい石で五十キロはありますから、腰も痛めるし体もきついです。ですが、積み終えた桶を下から眺めると、大変だった力作業の結果が形となって目に映り、苦勞を忘れます。それが一つの蔵ですつと連なっている姿は壮観で、胸にぐつとききます。やり甲斐を感じますね。」

現在、石積み職人は染次さんを含めて四名。その内二名はまだ見習いで、実質二名で石積み作業を行っている。

「自分一人で石を積むのに七年かかりました。職人と呼べるようになるには、十年ぐらいかかるでしょう。石積み職人は石を積む作業だけでなく、味噌を桶に仕込むのも、桶から掘り出す作業も行います。二メートルほどの桶の中身を全て手作業で掘るのです。他にも、桶の修理や箍のかけ替えも私たちがやります。」

先輩から受け継いだ技と想いを、若い見習いに教えるのも大切な仕事である。

「石を積んでごらん、とやらせてみると、柔軟性のなさや要領の悪さが目につきます。私のときも、そんな風だったのをここまで育ててくれたんだらうな、と振り返ることも多いです。時代の流れもあるので、私は私のやり方で、教えながら育てていこうと思っています。昔から受け継がれてきた伝統ある仕事なので、若手を自分以上に積める職人に育て上げることが私の務めです。」

昔から変わらぬ、天然醸造で作られる八丁味噌。その味を守るために、石積み技と心は脈々と受け継がれていく。



氏名 そめじ いちろう
生年月日 昭和四十三年十一月九日
住所 西尾市伊藤町

すべての子供に輝きを

生徒指導（不登校）指導員

富田 好己

「どんな行事でも積極的に学年や下学年を引っ張って活動していく。」

教室の背面掲示に、三年生を充実させたいと願うA男の熱い思いが綴られていた。二年前に不登校となったA男とは、到底結びつかない。

一年の二学期から、A男の足は学校から遠のいた。それでも三学期には、担任の先生の手厚いサポートで、保健室登校ができるまでに至った。保健室では、養護教諭の先生や副担任のB先生が、A男ら数人の保健室登校の生徒と関わり合う。教室にこそ入れないが、A男たちにとって興味ある話とともに、学習をサポートしてくれる保健室での生活は、彼らのエネルギーを蓄える場となっていた。「B先生が担任でよかった。安心してました。」二年最初の生活日記に綴





小さな子供たちに教えられて

奥殿小 後藤 三奈

教室に広がる世界が違う、と思った。前任校で中学生の担任をしていた私は、四月から小学二年生を受け持つことになった。

人懐こく、素直な子供たち。校外学習に出かけると、「先生、つかまえたよ。見て、カエル。」と、両手を広げて見せてくれる。子供たちとの毎日は楽しい。

一学期半ばのこと。教室で「Aちゃんにいやなことを言われた」という声が、たびたび聞こえるようになってきた。A子は、授業で発言をしたり、大切なことをつぶやいたりすることが得意な、元気のよい子供だ。去年の担任の先生に「気が強いところがあるのでもめごともあった」とお聞きしたのを思い出し、気になった。A子が、相手の辛さを先に思うことができたなら、彼女にとって、学校生活

がいつそう楽しくなるに違いない。担任として、ぜひそう成長させてやりたいと思ったが、具体策が思い浮かばなかった。

市道徳部から、研究授業をする機会をいただいたのは、そんなときだった。資料は、加藤源重さんの伝記。事故で指を失ったが、あきらめずに自助具を製作した話だ。一読して、人への思いやりの気持ちをA子に考えさせることのできる、またとない資料であると感じた。ただ、内容や文章の量から二年生が主題に迫ることとは難しいのではないか。話を理解し、考えを述べられるだろうか、と不安があった。しかし、右手の指を失う辛さは子供たちにとって、想像しやすいに違いない。豊富な映像資料を通して、源重さんの気持ちを考えることが出来るだろう。そう確信して授業に臨んだ。

導入で、主人公の写真や映像を見た子供たちは、「なんで指がないの」「こわいよ」と口々に述べ、資料に釘付けとなった。自助具が完成したときの主人公の気持ちを考える場面では、仕事一筋に励む主人公に共感する意見がどんどん出された。しばらく聞いていたA子が、納得できない表情で、みんなに投げ掛ける発言をした。

「どうして。どうして、ここまでで

きたの」。

ただ共感するだけの流れを止めて「どうして」と訴えたA子。主人公の痛みや苦難を、自分のこととして受け止めていればこそその発言だった。子供たちは、この発言を機に、あきらめない源重さんの姿を、自分の身近な経験とつないで考え、活発に意見交換し始め、主題に迫っていった。

二期の教室。時には小さなトラブルもあるが、給食の時間には、牛乳をこぼした友達に走り寄るA子の姿がある。算数の時間には、友達がわかるまで、言葉を選んで、筆算の仕方を説明するA子がいる。

私自身が子供への願いをもったとき、初めて「今、必要な授業」が生まれるのだと、子供たちに教えてもらった。目の前にいるのは、決して「小さな子供たち」ではない。この子供たちに負けないよう、私自身が、成長し続ける教師でありたい。



られたA男の言葉。保健室で確実に信頼関係を構築してきたB先生にとって、至福の瞬間であった。

それでも、依然としてA男には不安要素がいくつもあった。その一つが部活動である。一年の夏休みから出られなくなったA男にとって、授業後の時間は重苦しい。それを払拭してくれたのが校長先生である。A男の興味関心のある郷土研究部をつくり、自ら顧問となった。研究の成果を文化祭で発表するまでに至ったA男は、自己肯定感を得た。校長先生は、暑中見舞い、年賀状、修学旅行先からの手紙など、不登校生徒に向けて積極的に働きかけた。もちろん学校の職員全体が、チームとして不登校減少に向けて精力的に動いた。B先生も、焦らず確実にA男に寄り添い、ここぞという時には背中を押す。二年を終えたA男の生活日記には、「今年一年、活躍のチャンスをくれたので頑張れました」とあり、自信があふれていた。

校長先生のリーダーシップのもと、職員が同じ方向を向き、学校全体がひとつのチームとなって働きかけていく。子供の心の不安を取り除き、一条の光明を照らすには、これ以外に道はない。すべての子供に、輝きを与えたい。



市内小中学校にある市ゆかりの芸術作品〈立体・工芸〉

▲鈴木政夫（1916年～2002年）「力士像」（石彫・高さ85cm・竜美丘小）岡崎市出身

市内小中学校の校庭や玄関で、子供たちや来客を見守るようにたたずんでいる、立体・工芸の芸術作品。「石の町・岡崎」ならではの石彫のみならず、ブロンズ製、木彫など、種類は多岐にわたる。各校所蔵の絵画と同様、著名な作家の手による作品も多い。

そこで今回は、一部ではあるが、岡崎市内の小中学校にある、郷土ゆかりの作家による立体作品や工芸作品を紹介する。

子供たちが、多感な日々を、芸術作品と共に過ごすことは、感受性を育むうえで大きな意味がある。

芸術の秋。子供たちと共に学校ミュージアムの鑑賞会を開いてみてはどうだろう。

各校が所蔵する 市ゆかりの主な芸術家作品(立体・工芸)

洗川 一男	「空へ」	(城南小)
石川 文治	「宝舟みこし」	(大門小)
江坂 兵衛	「東照公像」	(城北中)
大野 幾生	「思考する樹木」	(常磐中)
近藤 鎰郎	「希望の塔」	(常磐東小)
鈴木 政夫	「若草のリズム」	(男川小)
	「かたらいの像」	(緑丘小)
	「目標を高く」	(矢作中)
	「ふるさと上地」	(上地小)
	「若草の塔」・「力士像」・「緑とともに」	(竜美丘小)
	「空よ風よ僕も私も小豆坂」	(小豆坂小)
	「立志の塔」	(城北中)
鈴木 基弘	「ぶどうを持った少年像」	(梅園小)
	「きずなの像」	(矢作東小)
牧野 正次	「本多光太郎像」	(矢作中)
山下 清	「気をつけっ!!」	(奥殿小)

〈五十音順〉

▶近藤鎰郎（一九二四年～二〇一四年）「希望の塔」（ブロンズ・高さ百四十七センチ・常磐東小）岡崎市出身



◀「きずなの像」（ブロンズ・高さ二百センチ・矢作東小）



◀「ぶどうを持った少年像」（ブロンズ・高さ百センチ・梅園小）

鈴木基弘（1913年～2007年）岡崎市出身・両作品とも

ブロンズ

木彫

▶ 山下 清 (一九五四年) 「気をつけっ!!」
(木彫・高さ二五〇センチ・奥殿小) 岡崎市在住



奥殿小学校では、かつて、子供たちがお世話になりました。とりわけ部活動では、校長先生方とともに、ときには父親の私も一緒になって、汗を流しました。そんな御縁から、先生方とお話をする機会が増え、作品を贈ることを申し出ました。木彫りのその作品(写真参照)には、自分の子供も含めて『子供たちには、少年時代をすくすくと育ってほしい』という強い願いを込めています。
喜怒哀楽さまざまに人が生きる、その意味を込めて彫ります。そんな作者の思いが観る人に伝わり、共感してもらえたら、と思っています。

彫刻家 岡崎市奥殿町在住

山下 清氏



◀ 江坂兵衛 (一九二八年) 「東照公像」
(木彫・高さ七五センチ・城北中) 岡崎市在住



▲ 洗川一男 (一九五五年) 「空へ」
(木彫・高さ100cm・城南小) 岡崎市在住

石彫

鈴木政夫 (一九一六年～二〇〇二年)
岡崎市出身・左下両作品とも



▲ 「かたらいの像」
(石彫・高さ80cm・緑丘小)



▶ 「空よ風よ僕も私も小豆坂」
(石彫・高さ九〇センチ・小豆坂小)



▶ 大野幾生 (一九五四年) 「思考する樹木」
(石彫・高さ三三〇センチ・常磐中)
岡崎市内中学校・大学勤務経験



▶ 牧野正次 (一九二六年～一九九八年)
「本多光太郎像」
(石彫・高さ一七五センチ・矢作中)
岡崎市出身

伝統工芸



▲ 石川文治 (一九一〇年～一九九二年)
「宝舟みこし」
(藁細工・高さ90cm・大門小)
岡崎市出身

お知らせ

● 教育最新情報

◆全国学力・学習状況調査
四月に行われた全国学力・
学習状況調査の岡崎市の結果
を分析した。

1 調査分析概要

(1) 全体の様子

岡崎市内の小中学校は、国語・算数・数学・理科の「知識」「活用」に関する問題において、全国及び県の平均正答率を上回っている。

小学校においては、算数の「活用」に関する問題が、「たいへんよくできています」状況である。

中学校においては、国語の「知識」「活用」「数学の「知識」「活用」、理科に関する問題で「たいへんよくできています」状況である。

- (2) 小中学校別各教科「知識」「活用」に関する問題の様子(下表)
- (3) 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

① 国語や算数・数学における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係



を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握する。

② ①の分析結果を受け、その

授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、改善状況を確認したり、必要に応じて指導したりする。

③ 各学校において行っている「教育診断アンケート(学校評価)」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示する。

④ 教育委員会と学校は、家庭

や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていく。

(4) 留意点

① この調査で測定した学力は、特定の一部分である。

② 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努める。

③ 家庭に向けては、得意なこと・不得意なことを知り、生活習慣の充実を図っていただく

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	できている ・具体的な事例を挙げて説明する文章を書く力に優れている ・話の内容に対する聞き方を工夫する力がやや弱い。 ・新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える力が弱い。	よくできている ・目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける力に優れている。 ・登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する力に優れている。 ・目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く力がやや弱い。
算数	よくできている ・繰り上がりのある2位数の加法や異分母の分数の減法の計算をする力に優れている。 ・式で表現された数量の関係を図と関連付けて表現する力に優れている。 ・示された三角形が二等辺三角形となる根拠となる円の性質を選択する力がやや弱い。	たいへんよくできている ・平行四辺形の性質を基に平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している児童が多い。 ・切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断する力に優れている。 ・長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する力が弱い。
理科	よくできている ・メスシリンダーの名称やメダカの雄雌の見分け方、また、水蒸気は水が気体になったものであることを理解している児童が多い。 ・打ち水の効果について、グラフを基に、地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して、分析する力に優れている。 ・顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている児童が少ない。	
学習状況	規則正しい生活を送ったり、自尊意識や規範意識が高かったりする児童ほど、高い正答率を得ている。「朝食を毎日食べる」児童の正答率は、「食べない」児童に比べ、3教科とも20ポイント以上高い。「毎日、同じくらいの時刻に起きる、寝る」児童の正答率は、「起きない、寝ない」児童に比べ、国語では20ポイント以上、算数、理科では15ポイント以上高い。また、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「学校のきまりを守っている」なども同様である。 平日、テレビゲームをする時間が長い程、正答率は低い。特に、4時間以上の児童の正答率は、1時間未満の児童に比べ、国語では15.2ポイント、算数では13.2ポイント、理科では11.8ポイント低い。また、平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い程、正答率が低い。特に、4時間以上の児童の正答率は、30分未満の児童に比べ国語では13.1ポイント、算数では12.6ポイント、理科では10.4ポイント低い。	

科	主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
国語	たいへんよくできている ・文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力に優れている。 ・登場人物の心情や行動に注意して読んだり言動の意味を考えたりして、内容を理解する力に優れている。 ・単語の類別について理解している生徒がやや少ない。	たいへんよくできている ・効果的な資料を作成し、活用して話す力に優れている。 ・目標に応じて文章を要約する力に優れている。 ・複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを具体的に書く力が弱い。
算数	たいへんよくできている ・加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、決まりに従って計算する力に優れている。 ・与えられた投影図から空間図形を読み取る力に優れている。 ・数量の関係を文字式に表す力が弱い。	たいへんよくできている ・問題場面における考察の対象を明確に捉える力に優れている。 ・事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する力に優れている。 ・事象を式の意味に即して解釈し、数学的な表現を用いて説明する力が弱い。
理科	たいへんよくできている ・グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取る力に優れている。 ・天気の記号から風力を読み取る力に優れている。 ・他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連づけて雲の成因を正しく説明する力が弱い。	
学習状況	生活習慣が確立し、規範意識が高い生徒ほど調査で高い正答率を得ている。具体的には、「朝食を毎日食べる」生徒の正答率は、「食べない」生徒に比べ、国語では、12.1ポイント、数学では18.8ポイント、理科では16.3ポイント高い。また、「毎日同じ時刻に寝る」「家で自分で計画を立てて勉強する」等も傾向は同様である。「学校の規則を守る」生徒の正答率は、「守らない」と回答した生徒より、国語で19.7ポイント、数学では18.7ポイント、理科では21.1ポイント高い。 平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い程、正答率が低い。特に、4時間以上の生徒の正答率は、30分未満の生徒に比べ、国語では11.9ポイント低く、数学では18.0ポイント、理科では17.5ポイント低い。	

- 【部門】
 - ① 個人研究の部(第一部門)
 - ② 共同研究の部(第二部門)
- 【論文の体裁】
 - ① 字数 一八二〇〇字以内(資料も本文範囲内に入れる。)
 - ② 用紙・様式 A4用紙
 - ③ 四十字×三十五行
 - ④ 十三枚以内(余白天地左右二十ミリ以上 文字は十二ポイント以上)
 - ⑤ 余白への資料添付は禁止
- 【留意事項】
 - ・体裁が違うものは審査の対象外となるので注意する。
 - ・未発表のものであること(ただし、継続実践研究は可)
 - ・添付資料は、判読しにくくなるほど縮小しない。
 - ・個人に関する情報を論文中に掲載する場合は、個人が識別されないよう留意する。
- 【提出期限】
 - 平成二十七年十一月二十五日(水)

◆岡崎市教育委員会委員

平成二十七年十月一日付で、岡崎市教育委員会が次のようになった。

- 委員長 福應 謙一
委員長職務代理者 櫻井 敬子
委員 土屋 武志
委員 小出 義信
委員(教育長) 高橋 淳

●ハートピアだより

ハートピア上地が

開所しました

ハートピア岡崎は、昭和六十年に、不登校児童生徒の支援を目的に開設されました。その後、平成二十二年一月、竜美北の教育相談センター内に移転し運営してきました。近年、通所を希望する児童生徒が増加し、学校や家庭からの要望にこたえることが難しい状態が続いていました。

そこで、本年度九月に「ハートピア上地」を総合学習センター一階に開所しました。これまでの「ハートピア竜美」と改め、二つの適応指導教室をあわせて「ハートピア岡崎」と呼ぶことになりました。就学相談・特別支援相談など教育相談活動は引き続き、教育相談センター内で行います。

新しいハートピア上地は、樹木に囲まれた広い敷地内にあり、近くの矢崎、若松、大谷公園などを利用し、様々な活動を行うことができます。



▲ハートピア上地 公園でのふれあい

午後の活動は隣接する公園を利用し、ゲームやボールを使った遊びなど、通所生同士で楽しくふれあいの時間を過ごしています。開所当初には、裏庭で、「流しそうめんの会」をして楽しみました。玄關脇の小さな畑には、大根、白菜などの野菜を植え付け、収穫し、会食を計画しています。所外の活動としては、例年のように、少年自然の家でのデイキャンプ、東山動物園への社会見学を計画しています。秋を迎え、中三の生徒は、自分の進路を考えなければならぬ時期になりました。中三の生徒だけが一緒に学習をする「ひまわりタイム」を予定しています。緊張感の中で、お互いに刺激し合い、集中して考えるという習慣を身に付けて、同学年の男女と一緒に過ごす経験をすることで、来春からの新しい学校生活に適應できる一助となればと考えています。

現在、ハートピア竜美、ハートピア上地の両施設とも二十

名程が通所しています。一人でも多くの児童生徒が新しい一歩を歩き出すことができるように支援していきたいです。

●表彰

◆第82回NHK全国学校音楽コンクール
小学校の部
優良賞 梅園小学校

◆第68回中部合唱コンクール
同合唱の部(中学校)
金賞 六ツ美北中学校

◆第58回中部日本吹奏楽コンクール
小編成の部
銅賞 岩津中学校

◆愛知県教育文化奨励賞
根石小学校 合唱部

◆第59回愛知県統計グラフコンクール
第一部(小学校一〜二年生)
金賞 三島小 判治 徹哉

○第二部(小学校三〜四年生)
金賞 竜美丘小 山本 愛結

銀賞 三島小 判治 孝哉
連尺小 平林 響

銅賞 矢作東小 江本 裕
竜美丘小 石立 莉穂

小豆坂小 梅澤ももか
井田小 仲野 衣舞

○第三部(小学校五〜六年生)
金賞 竜美丘小 柴田 あみ

井田小 松木 遥大
三島小 岩田 敦史
広幡小 佐野 文香

銀賞 竜美丘小 長嶺 桃子

竜美丘小 渡我部はるか

三島小 渡邊 理沙

三島小 鈴木 萌華

連尺小 黒川 愛嘉

三島小 二村知賀子

梅園小 加島 光稀

竜美丘小 西島 沙羅

廣幡小 田中彩姫子

○第四部(中学生)
金賞 城北中 水口 奈々

竜海中 鈴木 麻尋

城北中 中野佑里恵

城南中 大野さつき

翔南中 村瀬 萌衣
甲山中 齋藤 佳穂
竜海中 大下 葉

銅賞 生平小 中田 智理

生平小 小柳津有絵

生平小 梅本 蒼生

生平小 杉田 翠紀

福岡小 川上 大地

福岡小 暖斗

城南小 武内 空良

翔南中 砂田 希菜

河合中 野田優希菜

河合中 岡田 匠平

河合中 小柳津皓介

河合中 杉田 久弥

○統計グラフコンクール指導者表彰
城北中学校(団体)
六ツ美西部小 高松 順子

○統計グラフ教育指導者表彰
翔南中学校(団体)
◆フラワー・ブラボー・コンクール秋花壇付帯秋花花壇設計図コンクール
・愛知県知事賞 形埜小学校
◆第45回愛知県野生生物保護実績発表大会
・愛知県教育委員会賞 東海中学校

・カ
ツ
ト
新香山中 長坂 有里乃

東京オリンピック聖火リレー (昭和39年)

写真提供：美川中学校

東京オリンピックの聖火リレーでは、本校でも三十名の代表生徒が、伴走者を務めた。校内で、各部活動の中から、運動神経の優れた計三十名を選出。代表生徒は、配付されたランニングシャツとショートパンツを身にまとい、国旗を手に、国道一号線を、美川中学校付近から、東へと三キロメートル走った。写真は、そのときのものである。彼らには、前記のユニフォームに加え、記念のバッジやメダルも配られたという。

岡崎市内では、この東京オリンピックを機に、体育器具や設備の充実が進み、子供たちの基礎体力と体位の向上が図られた。以後、学校教育の重要な柱の一つとして、現在に至っている。その成果が、次の五輪に表れてくれれば、と期待する。



「東照公像」は、枯れてしまった「充文館の松」を利用して制作された。郷土の偉人・徳川家康を偲ぶようにしようという願いが込められていることを知り、深い感慨を覚えた。芸術作品自体の魅力もそうだが、作品に込められた願いを知ることにもまた興味深い。子供たちとも、この感慨を分かち合いたい。

どホ

霜月



修学旅行 (H26)

ツ

冷たい風に、木々が冬支度を始める中、笑顔を咲かせ、バスや電車に乗り込む子供たち。日本の古都を訪ね、歴史に触れる一泊二日。社会科の教科書で見てきた建造物も、自分の目で直接見ると感じ方が変わってくるだろう。百聞は一見にしかず。修学旅行で得るそれぞれの感動を大切に、次の学びにつなげたい。



心に火をつける
100人の
言葉
市川 覚

*心に火をつける創業者100人の言葉 市川 覚
宝島社 ￥1,000

心に残った一文
人間性の基本はたった一つ
「他人を思いやる」ということ

日本の名だたる創業者たちの、珠玉の言葉が紹介されている。上の一文中で紹介したもの以外にも、「人を幸せにする人が幸せになる」とか「人間が人間を使うことは根本的にはできない、相互信頼における協力関係があるだけである」といった言葉が並ぶ。読んでいくうちにあることに気がついた。創業者たちは、だれもが自分本位ではなく、自分の周りに気を配る『利他の心』を大切にしている。

*読んだら忘れない読書術 樺沢 紫苑
サンマーク出版 ￥1,500
*仕事に効く教養は中学3年間の社会科で学べる 井上 烈巳
KADOKAWA/中経出版 ￥1,400
*そうか、だから日本は世界で尊敬されているのか! 馬淵 睦夫
WAC ￥900

岩津中 長坂 洋人